

# 図書館だより



図書館ホームページアドレス <https://lib.city.iruma.saitama.jp/>

No.63

令和8年1月号

[4・7・10・1月発行]

発行:入間市立図書館

本館 04-2964-2415

西武 04-2932-2411

金子 04-2936-1811

藤沢 04-2966-8080

## 入間市 図書館を使った調べる学習コンクール

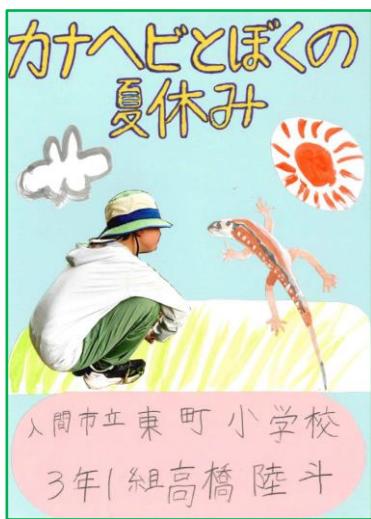
### 『最優秀賞』受賞作品を紹介します。

第5回入間市図書館を使った調べる学習コンクールでは、416作品の応募がありました。たくさんのご応募ありがとうございました！

どの作品も個性豊かで素晴らしい作品ばかりでした。

出品作品の中で見事「最優秀賞」を受賞した作品を紹介します。

#### 中学年の部



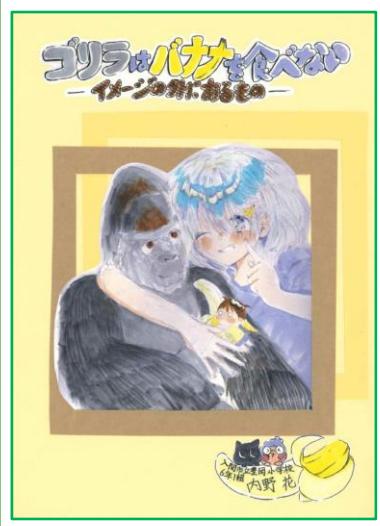
東町小学校 3年  
高橋 陸斗さん  
『カナヘビとぼくの夏休み』

#### 低学年の部



狭山小学校 2年  
鹿苑 瑠璃子さん  
『かみなりがなつたら、なぜへそをかくすの？？』

#### 高学年の部



豊岡小学校 6年  
内野 花さん  
『ゴリラはバナナを食べない  
—イメージの外にあるもの—』



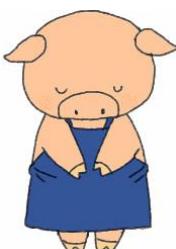
ほかの受賞作品は各図書館、入間市立図書館ホームページで紹介しています。

## 【全館】蔵書点検に伴う休館のお知らせ

図書館の全資料の点検のため、本館、分館、宮寺配本所、移動図書館を

次の期間休館いたします。なお、いるまし電子図書館はご利用いただけます。

休館日：3月2日（月）～3月6日（金） ※3月2日（月）は通常の休館日です。





## 入間市立図書館40周年記念事業実施中！

入間市立図書館本館は2025年に40周年を迎えました。  
本館では、昨年に引き続き、展示や事業を行っておりますので、ぜひお越し  
ください。

12月3日～2月1日

### 私と入間市立図書館

利皆様から公募した「図書館にまつわるエピソード」を展示しています。40年間の利用者の想いが詰まった展示は読む人の記憶をも呼び覚ます「共感型」のコンテンツです。エピソードの募集も引き続き行っています。提出していただいた方にはオリジナルしおりをお渡しします。

1月6日～

### みんなで、モザイクアート

40周年のフィナーレを飾る、次世代を担う子どもたちとの共創アートです。

資料の貸出時に配布されるシールを、図書館内の台紙の決められた位置に貼っていき、1つのアート作品を作り上げます。

対象：幼児から高校生

他にも40年前に出版された本を集めた「図書館と同一年の本」の展示や写真展「図書館今昔物語」が開催中です。



## 読み聞かせボランティアグループの広場



図書館で活動している、読み聞かせボランティアグループのどんぐり(本館)・かざぐるま(西武分館)・おはなし円(西武分館)・茶の花(金子分館)・トトロ(藤沢分館)です。

各グループより、最新情報を届けします。

**どんぐり** 「冬のおたのしみ会」のペープサート「どうぞのいす」、楽しかったでしょうか？来場してくれた皆さん、ありがとうございました。

今年は「午年」。馬のように飛躍できる年に。どんぐりみんなでかけ昇って行きます。応援よろしくお願ひします。

**かざぐるま** 毎週土曜日(第1土曜日を除く)と第1、第3日曜日の午前10時30分からおはなし会をやっています。こどもたちから“元気”をもらえ、かざぐるま一同楽しみにしています。

今日はどんな“おはなし”をしようかなと絵本や紙芝居を選ぶのも、楽しみの一つです。今年も張り切ってやっていこうと思います。ぜひ“おはなし会”に来てください。

**おはなし円** 每月第1土曜日の午前10時30分からおはなし会をしています。「カラスときつね」「かさをかしてあげたアヒルさん」「二匹のよくばりこぐま」などのおはなしをしました。あと出しジャンケン、早口ことば(赤パジャマ、青パジャマ、黄パジャマ。言える？)なども楽しみました。寒くなりますが、また元気に来てくださいね。

**茶の花** いつも最初と最後のあいさつに登場する、まるちゃん(こぶた)・さんちゃん(きつね)・しーちゃん(こいぬ)が、秋からリニューアルしました！新しい3人(匹)に会いに来てくださいね。今年はうま年。馬が主人公の絵本『ルシールはうま』(アーノルド・ローベル作、岸田衿子訳、文化出版局)は、楽しい話でおすすめです。今年もおはなし会でたくさん楽しい本に出会いましょう。

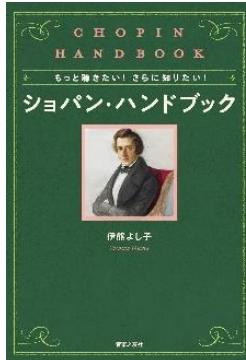
**トトロ** 「冬のおたのしみ会」で上演した新作の大型紙芝居「こびとのくつや」は、楽しんでいただけたでしょうか？これからもトトロ一同頑張って、大型紙芝居やパネルシアターなど手作りしたいと思います。離れてもよく見えるように皆さんにお届けしたいです。お楽しみに。木曜日と土曜日の午前11時からのおはなし会でも皆さんのお越しを待っています。



# 大人のためのBookガイド



～図書館職員のおすすめ本を紹介します～



『ショパン・ハンドブック もっと聴きたい!さらに知りたい!』  
伊熊 よし子／著 音楽之友社《762.349/イ》

この本は、若手ピアニストの登竜門、ショパン国際ピアノコンクールの手引書です。

PART1では、モーツアルトの再来と言われた少年時代、様々な芸術家との交流、3人の女性との出会いと別れ、39歳での早すぎる死など、ショパンの生涯を解説します。PART2ではショパン・コンクールの第一予選から本選までの課題曲について、表現方法や注目点などを分かりやすく解説します。PART3では若手からベテランまで、50人のピアニストが抱く、ショパンへの思いが語られます。

本を片手にコンクールのライブ配信を視聴して、ショパンを堪能してみてはいかがでしょうか。

『橋旅のススメ!』

吉田 友和／著 産業編集センター《291.09/ヨ》

「ああ、旅してるなあ」。

“渡る”という行為こそ、橋旅の最大の醍醐味。

人気旅行作家である著者が、全国各地の気になる「橋」を渡り歩いた、ユニークな橋紀行です。橋の魅力はもちろん、訪れた町の名物やグルメも紹介されており、軽妙な筆致でつづられる橋旅レクチャーが心に響きます。普段何気なく渡っている橋にも、意外な物語や文化が隠されていることに気づかされるはず。

読後は心がほっこりと軽くなり、「今年は橋を目指す旅に出てみようかな」と感じられることでしょう。



『緑地と文化 社会的共通資本としての杜』  
石川 幹子／著 岩波書店《518.85/イ》



2024年10月、明治神宮外苑における樹木の伐採が強行されました。百年の歴史をもつこの杜は、あらゆる人たちが四季折々の自然の風物を楽しみ、自由に行き来することのできる開かれた場として、手厚く保護されてきたものでした。「公衆の優遊の場」として創られた公園が、時とともに経済的価値が優先され、「私有地」として開発される…。でも、それは本当に仕方がないことなのでしょうか?「社会の富」である公園緑地の歴史と、そこに息づく文化や思想を考察し、「グリーンインフラ」としての緑地を問い合わせ直す1冊です。

『当世日本語万華鏡』

工藤 力男／著 和泉書院《810.4/ク》

本書は、日常の話し言葉や書き言葉、また、ネット空間に見られる言葉の中からおよそ300語を集め、辞書スタイルにまとめ考察を加えた、日本語についてのエッセイ集です。「推し」や「絆」、「真逆」といった最近よく耳にする言葉から、「わたし」、「食べる」、「可能性」といった普段あまり深く考えることなく使っている言葉まで、多様な言葉が選定されています。常に変化し続ける言葉の魅力を楽しみながら、日本語の歴史や発音、文法なども学べます。「日本語」好きのあなたにおすすめの1冊です。



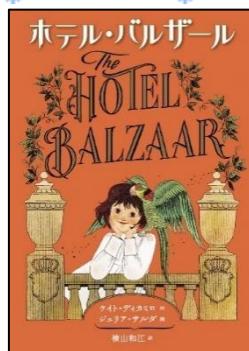
新着資料もたくさんあります。各館の新着コーナーをご覧ください!  
新刊だけでなく、寄贈いただいた資料なども並びます。



# こども向けBookガイド



～図書館職員のおすすめ本を紹介します～



『ホテル・バルザール』 «933/デイカ»  
ケイト・ディカミロ/作 ジュリア・サルダ/絵 横山 和江/訳 偕成社

家を追われたマルタと母はホテル・バルザールの屋根裏部屋に住むことになりました。母がホテルで仕事をしている間、マルタは自立ないように静かに暮らしていました。そんなある日、マルタの前に不思議な伯爵夫人があらわれます。「314号室にいらっしゃい。あなたがおもしろいと思うお話を聞かせてあげる」。そうマルタに言うと伯爵は7つの物語を語り始めます。一つ一つのお話は関係無いように思えますが…はたして7番目の物語とは?少し不思議で、読んだ後は幸せな気持ちになれるお話です。

『うちのねこ ゴロゴロキャプテン』 «す5»  
マデリン・フロイド/作 林 木林/訳 瑞雲舎

「わたしたち」のいえにいっしょにくらすねこ、「キャプテン」。とってもハンサムなかれは、いろんなところでねて、けなみをととのえて、たくさんのごはんを食べてくらしています。ところがそんなキャプテンにも、ひみつがあって——?

つきあかりのなか、ひっそりとでかけていくキャプテン。いったい、どこへ行くのでしょうか。ふつうのねこの、ちょっとぴりすてきなひみつをのぞけるえほんです。



『ガラス はじめてのサイエンス』 «407»  
セシル・ジュグラ/文 ジャック・ギシャール/文 ローラン・シモン/絵 山本 萌/訳  
NHK出版

身のまわりにある「ガラス」には、ふしきがいっぱい!  
この本では、光が反射するしきみや、水の入ったコップをさかさまにしても氷がこぼれない理由、うずまきの生まれ方などを、コップやグラスを使ったかんたんでたのしい実験と一緒にることができます。

「なんでこうなるの?」という発見がたくさんつまつた、科学のおもしろさを知るきっかけになることまちがいなしの1冊です。  
同じシリーズの『レモン』『たまご』『ふうせん』『しお』『じゃがいも』もあわせてどうぞ。

ティーンズ向け

『中三・ラプソディ』 «Y 913/はなざ»  
花里 真希/著 講談社

中学3年生の季里は中学生最後の合唱コンクールでフレディ・マーキュリーの『ボヘミアン・ラプソディ』を歌うことになる。本当は音痴だけれど、クラスのみんなには知られたくないと悩んでいる季里の前に現れたのは、イマジナリーフレンドのフレディ・マーキュリーだった!

家族との関係やなかなか進まない合唱の練習、卒業後の進路など、多くの悩みを抱える季里。幼馴染の颯太やクラスメイトの杉浦さんと関わることで次第に自分の進みたい道を見つけていきます。悩みを乗り越えていく季里の姿に勇気をもらえる物語です。

